

■ミッション■ 《会社のミッションを認識している従業員が多いと、会社の変化対応力はよくなります》  
ミッションとは、使命です。命を使うほどの意義のあることですが、多くの従業員は余り認識していないので、目の前の仕事や作業に没頭しがちになります。それは会社としては、大きなムダになります。ミッションは何かを、何度も繰り返し熱く語りかけて伝え、社員の行動が伴うように仕向ける必要があります

■仕事■ 《仕事を依頼する人と依頼を受ける人の人間関係を良くしていくことです》  
入りと出があるように、仕事には依頼する人とそれを受ける人が存在します。その人間関係がよいか悪いかで、仕事もうまくいくようです。しかも職場の悩みは、この人間関係がほとんどです。仕事とは、事に仕えらることも書きます。一つのことを助け合いながら進めることで、人間関係もよくなるかと思えます

■リーダー■ 《本当は誰も心の底でいい仕事したいと思っています。それを手助けする人です》  
いい仕事をしたいと思ったり、誰かの役に立ちたいと思うのは、人間本来の性質です。思っても実行する勇気がないことが多くあるのが普通の人なのです。リーダーは、そのような人たちの想いを背中から少し後押ししてあげる人のことです。人を動かす力の他に、相手の気持ちの読める人かもしれません

■自信■ 《まず「知る」こと、そして「わかる」こと、次ぎに体験して「できる」ことで自信になります》  
知識のないことには、何にも始まりません。まず知識に関心を持ち、知ることによってわかるようになり、頭だけでなく体で体験してできることで、納得できるようになります。そして自信をもってできるようになります

■チーム■ 《色々な才能を持った人たちを、最大限に発揮させて行かず場がチームです》  
手のひらをみてください。指の大きさ、太さが皆違います。でも親指だけ、人差し指だけでは何にも出来ませんが、手のひらの5本の指を使えば何でもできます。個々の才能を活かす場が職場であったり、チームであったりするのです。お互いを理解し、信頼し合うことで、チームワークを強く出来ます

■1時間■ 《1時間は60分です。60=5+55です。最初にこれから何をすべきか考えてみましょう》  
多くの人が惰性で仕事をしているようですが、間接部門の改善の手法として、1時間を60分=55分+5分と解釈して、最初の5分間に次の55分の仕事の目的、目標、それに必要な資料は何か、前回の反省すべきことは、どうやれば上手く行くかなどを5分間考えることで、すぐに良い結果が出るようになります

■経営資源■ 《なんだ、自分自身のことでした。案外と気づかないものです。もっと鍛えましょう》  
社長自らが一番の経営資源とは気づきにくいものですが、目の前の空気の有難さにも気づかない事と同じです。鍛錬とは、剣道の教えで、鍛とは千日の稽古、錬とは万日(27年余)の稽古をいうそうです

■1日■ 《誰にとっても1日=24時間は同じですが、使い方は無限です。無限ゆえに差が出ます》  
1日の使い方、1週間の使い方、1ヶ月の使い方、そして1年の使い方とスパンを大きく取っていくとさらに、その差は大きくなります。それを羅針盤のように定めるのが手帳の役割です。よい手帳を活用しましょう

■運転■ 《常に目を見開き、ハンドルを握り、アクセルブレーキも注意し、運転するのが経営です》  
自動車の運転も経営も、一瞬の目も離すことが出来ないものです。常に世の中の情勢は変化しています。時にカーブしたり、ブレーキを踏んだり、アクセルを踏み込むのも、常にタイミングを見る必要があります

■やる気を計る■ 《実際の時間より短く感じた時は、やる気があった証拠です》  
逆に実際に時間を長く感じた時は、やる気がなかった時です。やりたいと思うように心掛けたいものです

■座右の銘■ 《人を幸せにする人が幸せになる。あなたの座右の銘はなんですか？》  
本を読んでいましたら、同じような言葉に出会いました。「本当に幸せな人とは、他人の役に立つ方法を見つけた人」だとありました。経営の指針も必要ですが、自分自身の指針も持てたらとよいと思います